

道路整備を効率的に進めるには、現在の道路の問題点を把握し、効率よく問題点を解決する方法を考える必要があります。

1 信頼できる幹線道路ネットワークの確保



■津波による浸水箇所及び最大津波高



四国西南地域では、慢性的な渋滞や道路の線形不良のため、救急車の走行速度が低く、第三次医療施設への60分アクセスが達成できていない地域も存在します。また、日常生活でも地域間交流等に支障をきたしています。

一方、南海トラフ巨大地震が今後30年以内に80%程度の確率で起こると予測されていますが、緊急物資の輸送や、救急医療施設への搬送に欠かせない、安全性と信頼性の高い道路が十分に整備されていません。

※「四国8の字ネットワーク」とは、四国4県を結ぶ将来の高速交通ネットワークの愛称です。この高速道路ネットワークが「8の字」を描くことから名付けられました。

課題として

安全性・信頼性の高い高規格道路(四国8の字ネットワーク)^{*}を整備する必要があります。

解決策として

四国8の字ネットワークを構成する高規格道路の国道56号津島道路及び宿毛内海道路の整備を推進します。

2 人に優しい歩行空間の確保

大洲河川国道事務所が管理する南予地域※¹における直轄国道の死傷事故率※²は、12.4件／億台キロで、同地域の直轄国道を除く県道以上※³の死傷事故率6.6件／億台キロに対し、約1.9倍も高い値となっています。また、歩道等の整備も十分ではない箇所、急カーブや急勾配等、道路線形の良くない箇所が存在しています。

※¹：宇和島市、八幡浜市、大洲市、西予市、内子町、伊方町、松野町、鬼北町、愛南町の4市5町

※²：ある1km区間を自動車1億台が走行した時に、その区間内で死傷事故が発生する割合（事故データはR1～R4平均値）

※³：ここでは、高規格道路（NEXCO管理区間を除く）、国道、主要地方道、県道のうち、当事務所が管理する直轄国道を除く道路のことをいう。

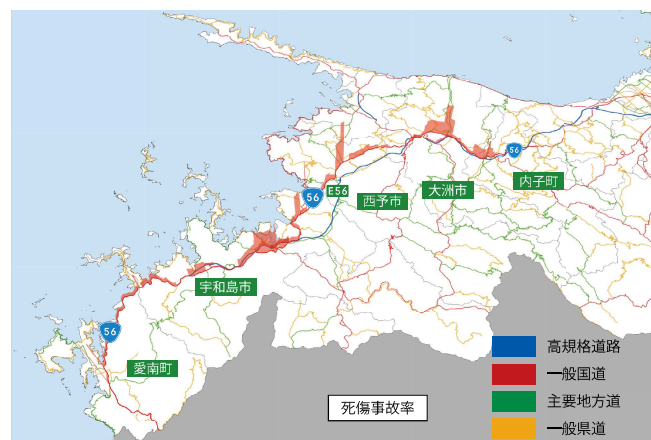
課題として

- ・死傷事故率を減少させ、安全安心な地域社会にする必要があります。
- ・交通渋滞が発生している箇所では、事故が発生するリスクが高まるため、交通渋滞を緩和し、交通事故の減少を図る必要があります。
- ・歩道等の未整備区間解消など、交通弱者対策が必要です。

解決策として

- ・宿毛内海道路、津島道路、嵐視距改良、八幡浜神社前交差点改良等を推進し、渋滞の緩和、交通容量の拡大、線形改良等を図ります。
- ・交通弱者対策として、宇和島市寄松地区等の歩道整備を推進します。

●南予地域における高規格道路、国道56号の死傷事故率（死傷事故が発生する割合が高い程グラフが高い）



(R1～R4)

ワイズネット
WISNET2050



“2025年、世界一、賢く・安全で・持続可能な基盤ネットワークシステム”をWISNET(ワイズネット)と位置づけ、その実現のための政策展開により、新時代の課題解決と価値創造に貢献します。

WISNET: World-class Infrastructure with 3S(Smart, Safe, Sustainable)Empowered NETwork

WISNETのコンセプト



WISNETの要点

○シームレスネットワークの構築

サービスレベル達成型の道路行政に転換、シームレスなサービスを追求します。

○技術創造による多機能空間への進化

国土を巡る道路ネットワークをフル活用し、課題解決と価値創造に貢献します。

求められる役割

- 経済成長・物流強化
- 交通モード間の連携強化
- 観光立国の推進
- 低炭素で持続可能な道路の実現
- 道路の枠を超えた機能の高度化複合化
- 地域安全保障のエッセンシャルネットワーク
- 自動運転社会の推進